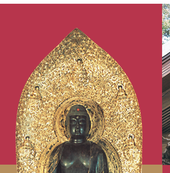
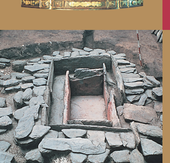
小美玉市 文化財ガイドマップ

小美玉市市制施行20周年記念





建造物

② 駒形神社本殿 MAP E-7 非指定
建立 元禄16年(1703)
中根区の鎮守。隣奥国駒ヶ岳の駒形神の分霊を迎えて創建したと伝わっています。本殿は一間社流造。棟札には、再建に尽力した旗本四氏、各名主および氏子54名の名が記されています。

③ 貴船神社本殿 MAP H-4 非指定
建立 江戸時代末
一間社流造。屋根は銅板葺。側壁にある龍の彫刻は、江戸時代後期～明治時代前期に活躍した後藤縫之助の手によるもの。縫之助は、笠間稲荷神社本殿の彫刻も手掛けています。大永6年(1526)の棟札には、立開城主 井坂修理助が大旦那として奉納したことが記されています。

④ 鳳林院山門 MAP D-6 非指定
建立 正徳5年(1715)
総檜中の発願により、2年の歳月を費やし完成しました。大正6年(1917)10月1日の台風により倒壊しましたが、現在の場所に復元されました。棟木に記された墨書によると、成田山新勝寺三重塔を手掛けた羽黒村（桜川市）の大工棟梁、櫻井瀬兵衛宏信が造営したことが分かります。

⑤ 鹿島神社本殿（上馬場） MAP E-6 非指定
建立 慶安2年(1649)改修
一間社流造。彫刻の一部に彩色を施し、屋根は茅葺でしたが、現在は銅板葺となっています。江戸時代の鹿島神社は、馬場村など周辺の9ヶ村の郷社でした。慶安元年（1648）の朱印状には、馬場村に三石が安堵されたことが記されています。

⑥ 山中薬師堂本堂 MAP G-3 非指定
建立 不明（江戸時代か）
山中山正諦寺は、本堂、仁王門、薬師堂を有する寺院でしたが、明治2年(1869)に廃寺となりました。明治時代末の火災で焼失を免れた薬師堂は、方形造であり、屋根は茅葺の寄棟造でしたが、昭和23年に瓦葺に改修しています。身舎は丸柱、内部は格天井となっています。

⑦ 照光寺山門 MAP E-8 非指定
建立 寛文2年(1662)
薬医門形式の山門。屋根の柱の面取りが大きく、化粧垂木の先端部に反り増しの技法がみられます。平成9年の解体修理工事の際に発見された墨書きによると、府中町（石岡市）の大工竹澤茂太夫の手によって建てられたことが分かります。

⑧ 本間玄琢の生家 MAP E-6 非指定
建立 江戸時代後期
稽医館を創設した本間玄琢の生家。宝暦5年(1755)、玄琢は馬場村の里正、村山儀衛門の長子として生まれ、14歳の時に小川村の郷医、本間道意に認められ、本間家の跡取りとなりました。生家は、茨城県内に広く分布した曲屋で村山家から寄贈を受け、やすらぎの里小川に移築されました。

絵画

⑱ 阿弥陀如来画像（山野） 非指定
制作 室町時代 寸法 94×38cm
絹地に茶色の法衣をまとい、截金による麻の葉模様をあしらっています。伝承では、観覧聖人が鹿島神宮に向かう途中、山野にてにわか雨に遭い、雨宿りをしながら、自身の衣の袖に描いて授けたとされています。山野では疫病除けの仏として崇められています。

⑭ 不動明王及び二童子画像 非指定
制作 室町時代カ
紙本に黒褐りを施し、その上に着衣および文様などを彩色した画像。盤石に立ち、二童子は腰を低めて明王に向かって立っている像容となっています。

⑮ 釈迦如来涅槃曼荼羅 MAP D-6 非指定
制作 元禄9年(1696) 寸法 276.7cm×168.0cm
釈迦入滅の情景を表した涅槃図。縦に5枚つなぎ合わせた麻地に金糸で刺繍されています。上部に開基の心海法印から歴代住職名や檀信徒の戒名150名、下部には願主である永福寺22世光雄法印が記されています。

彫刻

⑰ 石造地蔵菩薩立像（日限地蔵） MAP F-8 非指定
制作 明暦4年(1658) 像高 120cm
地蔵尽き頃に鎮座する地蔵尊は、希望する日時に願い事を叶えるとされています。出産ご利益があり、女性の信者が多く、旧暦24日が縁日となっています。背面には「明暦四年(1658)戊戌 六月二十四日、導師徳蔵尊第二十二代慧者法印賢慶」と刻まれております。

⑱ 木造地蔵菩薩立像（赤身地蔵） MAP F-8 非指定
制作 室町時代前半 像高 43.8cm
一木造。当初は彩色されていましたが、剥落して素地を表しています。宝徳2年(1450)、小河城主であった圀部氏は、城外に安置されていた地蔵尊を城内に迎え入れました。城主の娘にあざができ、地蔵尊に願を掛けると、あざが消え失せ、地蔵尊の全身があらわざに包まれたとの伝説があります。

⑲ 木造十一面観世音菩薩立像 MAP H-5 非指定
制作 江戸時代 像高 48cm
寄木造。肉身部は金泥塗、当初は彩色されていましたが、剥落して素地を表しています。安置されている飯前観世音堂は、平安時代末、八田氏の一族である真家長門守の祈願所として勧請されたとされます。古来より、安産を祈る人々の信仰を集めています。

⑳ 木造虚空蔵菩薩坐像 MAP J-6 非指定
制作 江戸時代前期 像高 50cm
修善院の本尊仏。寄木造で、頭に銅板製宝冠を載せ、右手に宝剣、左手には宝珠を持っています。虚空蔵菩薩は、智恵や知識を授ける菩薩として信仰されており、毎年2月の十二満日は、多くの参詣者が訪れることで有名です。

㉑ 木造観音菩薩立像 MAP J-6 非指定
制作 鎌倉時代初期 像高 107cm
修善院本堂に安置されています。寄木造で、その作風から、東大寺南大門金剛力士像を造った運慶、快慶らの流れをくむ「慶派」の仏師の作とされています。

㉒ 木造天堅尊楷像及び四童子立像 MAP F-7 非指定
制作 江戸時代 像高 36cm
色彩豊かな寄木造。椅子に座り、両手で日月が描かれた軍配形の団扇を持っています。天記（嬌祖）は、千年前から中国の沿岸部で航海安全の守護神として信仰されています。清の圧政から逃れ、海を渡った東皇心越禅師が持参した天記像の話を徳川光圀公が伝え聞き、その分霊を3体つくらせ、そのうち一体を舟運の要衝の地であった小川の天聖寺に下賜したものとされています。

㉓ 木造阿弥陀如来坐像 MAP D-6 非指定
制作 室町時代前半 像高 71cm
永福寺の本尊仏。寄木造、肉身部が金泥塗、衣部は漆箔で仕上げられ、定印を結び、蓮華台座に坐しています。

㉔ 木造阿弥陀如来坐像 MAP D-4 非指定
制作 室町時代 像高 40cm
熊野山神光院堂前寺の本尊仏でした。寄木造で、肉身部は漆箔、頭部は清凉寺式釈迦如来像の纐目状の意匠が採用されており、熊野信仰と真言律宗の影響を受けています。

㉕ 木造山中薬師仁王像 MAP G-3 非指定
制作 江戸時代末 像高 阿形像183cm、吽形像190cm
明治時代末の火災で広諦寺仁王門は焼失しましたが、安置されていた仁王像は難を逃れ、焼失を免れた薬師堂に移されました。ヒノキ材の寄木造で頭部、胸部ともに扁平な造りです。

㉖ 石造安楽寺仁王像 MAP E-7 非指定
制作 元禄5年(1692) 像高 阿形像170cm、吽形像165cm
安楽寺阿弥陀堂跡にある仁王像は、極楽寺およびその信徒によって建立されました。石材である伊豆石の輸送は、高崎の河岸問屋、笹目八郎兵衛の寄進によるものです。

㉗ 木造薬師如来坐像 MAP E-7 非指定
制作 嘉暦3年(1328) 像高 93.5cm
極楽寺の本尊仏。杉材の一木造、木地古色仕上げで、彫眼です。肉髻珠と白毫は水晶にて後補されました。背板内側には、墨書にて制作年代などの銘文がありました。

工芸品

㉘ 中台の白磁製子安観音像 MAP C-4 非指定
制作 江戸時代
中国明代に伝来した白磁製のマリア観音像で秘仏とされてます。約300年前の宝永年間から竹原長海寺境内の子安観音堂に安置されていましたが、明治28年(1895)、現在地に観音堂とともに移転されました。難産にご利益があるとされています。

㉙ 紺糸威二枚胴具足 非指定
制作 江戸時代
鉄錆地六十二間筋兜は、早乙女家貞(初代)の作。紺糸威二枚胴、袖、籠手、佩楯、面頬を具足しています。

㉚ 竹原神社神輿 MAP C-5 非指定
制作 明治時代中頃カ 寸法 高3137cm、胴幅40cm、重量172.4kg
竹原神社のアワアワ祇園の祭に「みろく」、「ささら」とともに町内を渡御しています。総欅造で、胴体部は欅の素地が活かされ、屋根は黒漆仕上げとなっています。

㉛ 円妙寺の銅鐘 MAP C-5 非指定
制作 応永10年(1403) 寸法 総高69cm、口径47cm
「当住心巴僧都勧進 長賢檀那宗長為二親菩州南部田舎青木山大聖円妙寺之会 往乗重法印 為一指手挑合力成弘 応永十年癸未十一月八日 賢鐘」の銘文が刻まれています。その後、銅鐘は奥州葛田郡大島村の熊野神社（いわき市）に移されましたが、嘉永3年(1850)、銘文が手掛かりとなり、円妙寺に戻されて現在に至ります。

書跡

㉜ 烈公書神名記 MAP F-7 非指定
制作 天保4年(1833) 寸法 91cm×26cm
稽医館の創設者、本間玄琢の子道偉は、水戸藩の都奉行吉成信貞に依頼して、藩主徳川斉昭の書の下賜を願いでました。斉昭公は、「大穴牟遅神」、「少名毘古那神」の神名を絹地に揮毫して2幅の掛軸に表具して授けました。その書は、稽医館の定例研究集会の際に掲げられました。

㉟ 紙本墨書 六歌仙色紙 非指定
六字名号とは、お念仏の「南無阿弥陀仏」のことで、右側に和歌、左側に「建暦元年(1211)十一月二十九日行年三十九歳僧州圓和ノ郷ニテ善信之（花押）」の銘記があります。

㊱ 三十六歌仙色紙 非指定
制作 天保5年(1834)
平安時代中頃の歌人藤原公任が撰んだ『三十六人撰』に基づき、三十六歌仙の和歌を色紙に描いたもの。

古文書

㊲ 傘連判状 非指定
作成 宝暦4年(1754)
旗本曾我氏に代官所役人、羽生内蔵之助の墓先を要求した事件の連判状です。命のように円形に連なる署名指印がされていることから、傘連判状と呼ばれています。これより、翌年には内蔵之助は追放されます。

㊳ 紙本墨書 修善院由来之事 MAP J-6 非指定
作成 江戸時代前半
修善院に伝わる創建以来の由来記と、讃岐国屋生院善通寺にあった末院を住持氏の重宝であった船尾氏が移事したことから始まります。その後、何度かの移事を繰り返し、16世紀末には、下吉影に移り10石の所領を得ました。

㊴ 香取大宮司家文書 非指定
作成 鎌倉時代後期～江戸時代
香取神宮の長官職であった大宮司家の文書群の一部。その多くは長い年月の間に散逸しました。小川の香取大宮司家文書は、鎌倉時代後期から江戸時代にかけての香取神宮とその周辺との関わりを示す文書や、徳川光圀公に関する文書があります。

㊵ 旧誉田家文書 MAP F-7 非指定
作成 江戸時代
代々、水戸藩運船船長を務めた誉田弥五左衛門家から寄贈された文書群。その中でも、嘉永6年(1853)の『川係嘉南沿り日記』は、弥五左衛門が北浦北岸の津挽河岸から江戸小梅の水戸藩蔵屋敷に回漕した航行日記で、高瀬舟の航行の詳細が分かる資料として注目されています。

考古資料

㊶ 雷電山経塚出土の経塚遺物 MAP D-8 非指定
年代 鎌倉時代初期 法量 高さ15.2cm、直径5.9cm
雷電山古墳の墳頂に築かれた経塚。経文を入れた金銅製経筒を覆美産の壺に納めて、常滑産陶器の大甕で蓋をして埋納しています。常陸平氏との関連性がある資料とされています。

㊷ 極楽寺出土の灰釉陶器 短頸壺・蓋 MAP E-7 非指定
年代 10世紀半頃
法量 壺：口径12.2cm、器高26.8cm 蓋：口径14.1cm、器高3.9cm
短頸壺と蓋のセットは、火葬した遺骨を納めるために使われたため、「経骨器」と呼ばれています。これを埋納する火葬墓は、階層の高い人物や僧侶の墓と言われています。

㊸ 権現平遺跡の旧石器時代遺物（尖頭器） MAP D-8 非指定
年代 後期旧石器時代終末 数量 22点
旧石器時代の終わり頃に狩猟に使われた道具。柄の先につけて獲物を突き刺すために使われました。石材は硬質頁岩で、周辺からは、石器や剥片などが出土しています。

㊹ 権現平古墳群第2号墳出土の加飾壺 MAP D-8 非指定
年代 古墳時代初頭（4世紀前葉）
一辺20cmの方形周溝墓から出土した供献土器。口縁部には円形浮文や棒状浮文が貼り付けられ、刻み目のある突帯や櫛描の波状文などの装飾があることから、霞ヶ浦北岸に初めて誕生した首長は東海地方にゆかりがある人物と考えられます。

㊺ 権現山古墳出土の須恵器筒形器台・直口壺 MAP D-8 非指定
年代 古墳時代後期（5世紀末～6世紀初頭）
前方後円墳の造り出し部付近にて出土した供献土器。脚部の上に長い筒状の胴部が付き、頂部に小さな受けが付いた器台です。上には直口壺を載せたと思われます。

㊻ 山野出土の灰釉陶器短頸壺（蔵骨器） MAP F-7 非指定
年代 9世紀後葉～10世紀前半 法量 口径13.0cm、器高28.6cm
灰釉陶器短頸壺と須恵器坏蓋を転用して蓋とした「蔵骨器」です。火葬した骨を埋納した火葬墓は、階層の高い人物や僧侶の墓と言われています。

㊼ 山野犬塚経塚出土の銅製経筒 MAP F-7 非指定
年代 室町時代 法量 高さ8.1cm、直径4.5cm
六十六ヶ国の霊場に遥礼した際に法華経を書写して埋納した経筒。巡礼者の名「越前国善長」、法華経の守護神「十羅刹女、三千眷属」の銘文が線刻されています。

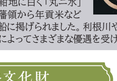
㊽ 城之内館跡出土の古瀬戸香炉 MAP D-8 非指定
年代 15世紀中葉 寸法 高さ6.7cm、口径11.5cm
古瀬戸灰釉筒形香炉。破損した後に壺が埋まており、底部には三つの足があります。胎土が還元を受け灰色に変化しており、内面は煤により黒色を呈し、表面には緑色の灰釉が残っています。

歴史資料

㊾ 朝倉家医学書及び薬草標本 MAP F-7 非指定
年代 江戸時代
小川村村横町の郷医、朝倉友慶、真斉父子二代が使用した医学書や薬草標本。稽医館の遠宮にも関わり、種痘を実施する計画を近隣の村々に働きかけました。

㊿ 小岩戸の板碑 MAP F-5 非指定
年代 貞和5年(1349) 寸法 高さ86cm
秩父産の緑泥片岩で造った武蔵型板碑。蓮台に乗った梵字で阿弥陀如来を表現した「キリーク」と華厳が刻まれています。周辺には多くの五輪塔や貴重印塔があることから中世墓があったと考えられます。

(51) 鈴木家古文書等「水戸藩玉里御留川」関係資料 MAP D-5 非指定
年代 江戸時代
寛永2年(1625)、水戸藩は、財源を確保するために霞ヶ浦高浜入りの水域を専用漁場に設定して、「玉里御留川」としました。御川守として管理を任された鈴木源太左衛門家には、御留川に関連した資料が残されています。


玉里御留川図

霞ヶ浦絵図

(52) 稽医館の碑 MAP F-7 非指定
年代 文政元年(1818) 寸法 高さ160cm
小川村の郷医であった本間玄琢が創設した稽医館の顕彰碑。平石に漢文にて刻まれています。その内容は、稽医館以前の歴史、創設の由来、医道のの心得などです。撰文は、水戸藩南郡の郡奉行小宮山楓軒、筆頭が水戸藩小姓頭で能筆家として有名であった鵜殿広生によるものです。

(53) 水戸藩印 MAP F-7 非指定
年代 江戸時代 寸法 104×160cm
水戸藩船が船上に掲げた旗。紺地に白く「丸二水」印に染められています。水戸藩領から年貢米などの物資を江戸に回漕した廻船に掲げられました。利根川や江戸川を航行する際は御三家の権威によってさまざまな優遇を受けました。

有形民俗文化財

(54) 藤井家の民具 MAP F-7 非指定
年代 江戸時代～昭和初期
小川坂下の藤井家に伝わる民具で、江戸時代から昭和初期に至る種々な生活道具が揃っています。

もっと知りたい小美玉の文化財

建造物

詳しくはコチラ
- ③ 円妙寺常行堂 — 上玉里 — 円妙寺

古文書
- ⑤ 玉里古跡録(写) — 上玉里 — 鵜殿家文書

考古資料
- ⑦ 南岸貝塚の出土遺物 — 与沢 — 小川資料館
- ⑧ 部室貝塚の出土遺物 — 上玉里 — 玉里史料館
- ⑨ 羽黒遺跡の出土遺物 — 竹原 — 玉里史料館
- ⑪ 並木新田古墳群の出土遺物 — 大谷 — 美野里公民館
- ㉒ 富士崎古墳の出土遺物 — 高崎 — 玉里史料館
- ㉓ 須賀屋敷前付属館(復元) — 倉数 — 小川資料館
- ㊹ 小河城跡の出土遺物 — 小川 — 小川資料館

歴史資料
- ㊽ 江戸崎街道の道標写真と新ダム — 下吉影 — 小川資料館

有形民俗文化財
- ㉑ 横町覚書 — 小川 — 小川資料館
- ㉔ 素鷲神社の神興と講屋台 — 小川

史跡
- ① 宮後貝塚 — 栗又四ケ
- ⑩ 八幡脇貝塚 — 栗又四ケ
- ⑫ 富士権現古墳 — 小川
- ⑬ 権現塚古墳 — 幡谷
- ⑭ 大井戸古墳 — 下玉里
- ⑮ 立開城跡 — 上吉影
- ⑯ 宮田館跡 — 宮田
- ⑰ 片倉館跡 — 堅倉
- ⑱ 鴨田城跡 — 鴨田
- ⑲ 高原城跡 — 竹原中郷
- ⑳ 富士館跡 — 竹原中郷
- ㉑ 富士館跡 — 竹原中郷
- ㉒ 原山館跡 — 上玉里
- ㉓ 高崎城跡 — 高崎、下玉里
- ㉔ 愛宕館跡 — 下玉里
- ㉕ 城之内館跡 — 川中子
- ㉖ 竹原小学校遺跡 — 竹原
- ㉗ 辻堂高地遺跡 — 栗又四ケ
- ㉘ 部室平遺跡 — 部室
- ㉙ かじやん保遺跡 — 与沢
- ㉚ 玉井 — 上玉里
- ㉛ 山内遺跡の宝館印塔と五輪塔 — 上玉里
- ㉜ 市毛藤衣衛門の墓碑 — 上吉影
- ㉝ 下吉影河岸跡 — 下吉影
- ㉞ 栗橋小関新墓関設石碑 — 小川

神社
- ① 素鷲神社 — 小川
- ② 貴船神社 — 上合
- ③ 潮宮神社 — 倉数
- ④ 石船神社 — 小岩戸
- ⑤ 竹原神社 — 竹原
- ⑥ 椿山稲荷神社 — 竹原
- ⑦ 千勝神社 — 大谷
- ⑧ 大宮神社 — 上玉里
- ⑨ 八幡神社 — 栗又四ケ
- ⑩ 洪井稲荷神社 — 下玉里

寺院
- ① 修善院 — 下吉影
- ② 永福寺 — 竹原中郷
- ③ 鳳林院 — 竹原中郷
- ④ 円妙寺 — 上玉里
- ⑤ 照光寺 — 上玉里
- ⑥ 極楽寺 — 栗又四ケ
- ⑦ 徳蔵寺(廃寺) — 下馬場
- ⑧ 天聖寺(廃寺) — 小川
- ⑨ 妙喜寺(廃寺) — 小川
- ⑩ 安楽寺(廃寺) — 栗又四ケ

近現代遺跡
- ⑩ 滝井遺跡 — 上玉里
- ⑪ 田余畜産高等小学校校門 — 上玉里 — 小玉石型彫塑

写真提供 茨城県立歴史館、公益財団法人茨城県教育財団、国土地理院、筑波大学附属図書館(デジタルコレクション)、明治大学博物館、明治大学文学部考古学研究室

発行・編集 小美玉市教育委員会生涯学習課 TEL:0299-26-9111
令和8年(2026)3月

無形民俗文化財

㊼ 素鷲神社の祇園祭 MAP F-7 非指定
旧暦6月1日、7日、11日、13日の4日間にわたったことから、「四度のまつり」とも称され、御仮屋や氏子の町内において一連の神事が執り行われています。當家祭と呼ばれる神事は、前年の御神輿式で当番日が決定したその町内が受け持つ、十一日當家祭（當家注連）、十七日當家祭（八町注連）、二十一日當家祭（お浜降り式）、二十三日當屋祭（稲田姫祭）があります。

㊽ 下馬場はやし 非指定
8月の鹿嶋神社の祭礼に氏子の家内安全と五穀豊穣を祈念して奉納される芸能。江戸時代の終わり、江戸生まれの船頭の影響を受けながら下馬場村の有志により、独自のお囃子となりました。

㊾ 立延の盆綱 MAP F-7 非指定
立延地区に伝わる盆行事。子供たちが8月13日の迎え盆に藁でつくった龍に模した綱を引いて、盆棚にお供物を乗せ、地区の家々を回って、ご先祖の霊を送り届ける習俗です。

㊿ 立延の青屋祭 MAP F-7 非指定
子供たちの年中行事。かつては旧暦6月21日、青竹でかい綱を組み、茅で屋根を葺いて「青屋の仮殿」を組み、中に御幣をお祀りし、最後には、仮殿をかつぎ、近くの圀部川へ流していました。現在は、茅の茎で箒を作り、家々を回り、箒とお礼を配っています。配られた箒でうどんを食べる風習は悪疫を防ぎ、長寿の願いが込められています。

(51) 竪沓ばやし MAP F-5 非指定
8月の金刀比羅神社の祭礼に奉納される芸能。山車の舞台で披露され、長太鼓、小太鼓、摺鉦、笛の演奏に合わせ、獅子舞、神馬（きつね）、四丁目（おかめ）、民場（ひょっとこ）からなり、山車の出発と帰着を告げる「さんざり」というお囃子もあります。

(52) 羽鳥囃子 MAP E-5 非指定
鹿島神社で大鼓や鼓を叩いて行われていた両ごっかが起源とされ、やがて面をつけた舞が加わった現在の形となりました。獅子、神馬（きつね）、四丁目（おかめ）、民場（ひょっとこ）で構成されています。

史跡

㉖ 南坪貝塚 MAP H-8 非指定
時代 縄文時代後期(約4,000～3,000年前)
霞ヶ浦北岸に所在する大規模貝塚。直径約100mの範囲に馬蹄形に広がる地点貝塚がある。貝層の厚さは30～50cm、堀之内式期に貝層が形成されました。貝層は、鹹水性のハマグリ、シオフキが主体を占めている。3体の埋葬人骨、クロダイ、スズキなどの魚骨やシカ、イノシシなどの獣骨も見つかっています。石器(石皿、石錘)、土偶、骨角器(ヤス、釣針)、貝輪、土器片錘もあります。

㉗ 野中貝塚 MAP F-8 非指定
時代 縄文時代前期後半(約5,500年前)
圀部川流域の台地斜面部に形成された径5mほどの地点貝塚。花積下層式期に厚さ50cmの貝層が形成されました。鹹水性のハマグリ、マガキが主体を占め、マダイ、スズキなどの魚骨、シカ、イノシシなどの獣骨、鹿角製釣針も見つかっています。やや内陸部に立地しており、縄文海進時の海岸線を知ることのできる遺跡です。

㉘ 部室貝塚 MAP D-8 非指定
時代 縄文時代中期～晩期(約4,500～2,800年前)
霞ヶ浦沿岸における大規模貝塚。2ヶ所の斜面貝層があり、B貝層の発掘調査では、4,500～3,000年前の貝層が確認され、埋葬された縄文の人骨も出土しています。鹹水性のハマグリ、サルボウガイなどの貝殻、ハゼ、クロダイなどの魚骨、シカやイノシシなどの獣骨、炭化したドングリが見つかっています。また、漁労具(ヤス)、狩猟具(石鏃、骨鏃)、製粉具(石皿、凹石、敲石)などの道具も出土しています。

㉙ 地蔵塚古墳 MAP F-8 非指定
時代 古墳時代後期(6世紀後半)
墳丘長約64mの帆立貝形古墳。墳頂部に日限地蔵尊が祀られており、埋葬施設はよく分かっていません。後円部南西側の中段と鞍部から円筒埴輪列が確認されています。4条5段の普通円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、形象埴輪では盾形埴輪と馬形埴輪が出土しています。

㉚ 羽黒古墳群 MAP D-5 非指定
時代 古墳時代前期(4世紀後半)
圀部川中流域に位置する前方後円墳1基、円墳3基で構成される古墳群。主墳は、墳丘長67mの前方後円墳。前方部が細長く後円部に比べて高さが低い古い形態ですが、埋蔵施設は発掘されていません。墳丘からは円形、三角形、方形透穴をもつ器台形円筒埴輪や壺形埴輪の破片が見つかっています。

㉛ 愛宕山古墳群 MAP C-4 非指定
時代 古墳時代中期カ(5世紀)
圀部川支流の小曽納川左岸に位置する円墳5基で構成される古墳群。主墳である第1号墳は、径50m、高さ5mを測り、幅10mほどの周溝が明瞭に残存しています。かつて、円筒埴輪が出土したとされていますが、明確な年代は不明です。

㉜ 泥障塚古墳群 MAP D-2 非指定
時代 古墳時代後期(6世紀)
巴川右岸に位置する標高約26mの台地上に所在し、前方後円墳2基、円墳5基で構成される古墳群。古墳群最大の第1号墳は、墳丘長39.5mを測る前方後円墳であり、後円部頂頂部には埋葬施設の石棺材が散在しています。

㉝ 勅使塚古墳 MAP D-3 非指定
時代 古墳時代後期カ(6世紀)
圀部川支流、花野井川左岸に位置する標高28mの台地上に築造された単独墳。径30mの円墳で、墳輪が確認されています。

㉞ 稲荷山古墳 MAP E-7 非指定
時代 古墳時代後期(6世紀)
巴川右岸に位置する標高28mの台地上に築造された単独墳。径26.5mの円墳で、3条4段の普通円筒埴輪が確認されています。

㉟ 塚山古墳 MAP E-9 非指定
時代 古墳時代中期(5世紀前葉)
霞ヶ浦を臨む標高25mの台地上に築造された円墳。径61m(復元)、高さ7.8mの二段築成で、墳頂のある円筒埴輪が確認されています。石岡市の舟塚山古墳と墳丘規格や埴輪に共通点があります。

㊱ 雷神山古墳 MAP F-8 非指定
時代 古墳時代中期カ(5世紀前葉)
圀部川左岸に位置する標高18mの台地上に築造された円墳。径56m、高さ7mの二段築成。埴輪は確認されていませんが、墳丘規格から堀山古墳と共通点があります。

㊲ 権現山古墳 MAP E-9 非指定
時代 古墳時代後期(5世紀末～6世紀初頭)
霞ヶ浦を臨む標高24mの台地上に築造された前方後円墳。墳丘長89.5mと市内で最大規模を誇ります。後円部の主体部はよく分かりませんが、前方部にある木棺直葬の埋葬施設から大刀口と鉄鏃30本が出土しました。普通円筒埴輪は3条4段、朝顔形円筒埴輪が7条8段、造り出し部には馬形埴輪、短甲形埴輪、人物埴輪などの形象埴輪が配置され、供献土器をふる土師器のほか、須恵器の筒形器台と直口壺も出土しています。

㊳ 舟塚古墳 MAP E-8 非指定
時代 古墳時代後期(6世紀前葉)
霞ヶ浦北岸に位置する標高約24mの台地上に築造された前方後円墳。墳丘長72mの二段築成、西側には造り出しが付設されています。埋葬施設は、通称「雲母片岩」による二重の箱式石棺ですが、盗掘により、副葬品は散逸しています。昭和40年調査では、鏡装主頭大刀柄頭、盾角装刀装具、鉄鏃、馬具、ガラス製丸玉などが出土しています。また、調査の直前に盗掘されたとされる資料が伝舟塚古墳資料として存在しています。埴輪は、茨城県指定有形文化財となっています。(地図画参照)

㊴ 雷電山古墳 MAP E-8 非指定
時代 古墳時代後期(6世紀中葉)
霞ヶ浦北岸に位置する標高約24mの台地上に築造された帆立貝形古墳。主墳は、墳丘長67mの前方後円墳。前方部が細長く後円部に比べて高さが低い古い形態ですが、埋蔵施設は発掘されていません。墳丘からは円形、三角形、方形透穴をもつ器台形円筒埴輪や壺形埴輪の破片が見つかっています。

㊵ 滝台古墳 MAP E-9 非指定
時代 古墳時代後期(6世紀中葉)
霞ヶ浦を臨む標高23mの台地上に築造された前方後円墳。墳丘長83.4m、確認されている円筒埴輪は、舟塚古墳と類似しています。人物埴輪、馬形埴輪、器財埴輪などの形象埴輪が出土しています。

㊶ 山田峰古墳 MAP E-9 非指定
時代 古墳時代後期(6世紀中葉)
霞ヶ浦を臨む標高22mの台地上に築造された前方後円墳。墳丘長83.6m、確認されている円筒埴輪は、舟塚古墳や滝台古墳と類似しています。また、同古墳群中には、墳丘長59.5mの愛宕塚古墳(帆立貝形古墳)が所在しています。

㊷ 桃山古墳 MAP E-9 非指定
時代 古墳時代後期(6世紀後葉)
霞ヶ浦を臨む標高23mの台地上に築造された前方後円墳。墳丘長54.5m、普通円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、馬形埴輪が確認されています。

㊸ 木船塚古墳 MAP D-7 非指定
時代 古墳時代終末期(7世紀初頭)
圀部川が開析する谷津に面する標高24mの台地上に築造されています。墳丘長42m、埴輪の樹立が終焉した後の前方後円墳。明治7年の埋葬施設の調査では、横穴式石室から双龍環頭大刀、圭頭大刀、金環が出土しています。

双龍環頭大刀柄頭

㊹ 岡岩屋古墳 MAP E-8 非指定
時代 古墳時代終末期(7世紀前葉)
圀部川が開析する谷津に面する標高24mの台地上に築造された円墳。径40mで横穴式石室が露出しています。天保年間に徳川斉脩公のお声掛りで発掘調査が行われました。

㊺ 竹原城跡 MAP D-6 非指定
時代 16世紀
永禄2年(1559)、府中城主大掾貞国が江戸氏の南進に備えるために築城し、弟の義国が城主となりました。圀部川左岸に位置し、標高23mの台地上および低地に立地しています。台地の突端部に主郭(曲輪Ⅰ)を配置し、北、東および西の三方を曲輪Ⅱで囲む梯郭式の城郭。

㊻ 小河城跡 MAP F-7 非指定
時代 13世紀～17世紀初頭
圀部川左岸に位置する標高20mの台地上に占地し、6つの曲輪、堀おとび堀切などで構成されています。13世紀初頭、小河二郎政平が築城。その後、小田氏重臣、圀部氏が入城します。江戸氏の配下となった圀部氏でしたが、天正18年(1590)、小河城は、佐竹氏の急襲を受けて落城したとされています。佐竹氏の治世では、文禄3年(1594)に茂木治良、佐竹氏の秋田国替え後の慶長7年(1602)には、戸沢政盛が城主となりました。

㊼ 羽鳥館跡 MAP B-3
時代 15～16世紀
小田一門の小田治直の居城。圀部川から離れた内陸部に位置する北郭と南郭で構成される複郭式の方形居館。主郭である南郭は、南北130m、東西115mの長方形、北側には一回り小さい北郭があります。北郭の東側では、南北方向の幅4.8m、深さ1.6mの箱薬研状の堀跡が確認されています。

㊽ 取手山館跡(田余岩) MAP E-8
時代 16世紀
圀部川右岸に位置する標高10～20mの台地上に占地しています。後世の改変が大きく、土塁や堀は確認できません。天文年間、大掾氏が小田氏の重臣、圀部氏との抗争に備えて築城しましたが、天正16年(1588)4月、江戸・佐竹軍の急襲を受け、戦死者200人を超す激戦の末、落城しました。調査では、堀跡6条、曲輪2ヶ所、通路跡8ヶ所などが確認されました。堀跡から大量の鉄砲玉が出土しており、激しい戦いの一端が明らかになっています。

㊾ 飯塚館跡 MAP E-7
時代 12世紀末～16世紀
常陸大掾平国香の子孫である飯塚氏の居館。圀部川右岸に位置する標高24mの台地上に築城されています。山の上に構築された狭長な曲輪Ⅰは、二重の土塁と堀に囲まれており、一段下には土塁と堀で区画された曲輪Ⅱがあります。現存する土塁などの城郭施設は、改修された天正期の遺構。

㊿ 親鸞聖人ゆかりの経塚(与沢経塚) MAP H-8 非指定
二人の幼子を残して妻に先立たれた喜八は、毎晩、妻の霊が枕元に現れるので、鹿島に向かわれる親鸞聖人に相談し、浄土三部経を書いた小さい石を妻の墓に埋めました。それからと言うもの妻の霊は現れなくなり、幼子もすくすく成長したという伝説が残っています。

(51) 竹原中郷経塚 MAP D-6 非指定
時代 享保14年(1729)
扁平な石に経典の一文字を書写し、それを大量に埋納する一字一石経塚。塚自体は失われていますが、風林院17世の住職大空音聞と親近の僧、祥瑞が帆縫から地元民を救うための願いを込めて大乗妙典と施餓鬼経を書写して納経したことを記念する供養塔が建立されています。

(52) 中台の一里塚 MAP D-5 非指定
時代 江戸時代
水戸街道の両側に1里(約4km)ごとに造られた塚。市内にはわか所あるましたが、中台の一里塚のみが、現存しており、エノキが植えられています。

(53) 下滝遺跡 MAP E-9 非指定
時代 縄文時代後期末葉(約3,000年前)
霞ヶ浦を臨む標高2～3mの低地に所在する遺跡。縄文時代後期には海浜部で、製塩土器が出土していることから、塩づくりが行われていた可能性があります。

(54) 新田遺跡 MAP C-8 非指定
時代 弥生時代中期末葉(約1,900年前)
霞ヶ浦を臨む標高24mの台地上に所在する遺跡。小規模な竪穴建物跡が見つかっています。炉から出土した器から弥生時代中期末と考えられています。また、稲穂の刈り取りに使われた石製穂摘具も出土しています。

(55) 古代の官道 MAP B-4 非指定
時代 7～11世紀
律令国家が整備した駅路と伝路を「古代の官道」と呼んでいます。市内の羽鳥、羽河、高田などには「五万堀」の地名があり、それらを結ぶと直線上に並びます。これは、常陸国府から陸奥に向かう駅路のルートと推定されています。また、11世紀、源義家が奥州征伐のため、この地を通過した伝承が官道沿いに残されています。

(56) 桑原の岳(宮平遺跡・天神遺跡) MAP E-8 非指定
時代 8世紀
常陸国風土記に記載される「桑原の岳」に比定される遺跡。郡衙などの役所や寺院などで見つかる断面逆台形の区画溝が確認されており、灰釉陶器、瓦、鉄鉢形土器などの特殊な遺物も出土しています。古代における田余郡の中核的な集落と考えられています。

訂正常陸國風土記（一部抜粋）

(57) 小川焼窯跡 MAP F-7 非指定
時代 江戸時代末
圀部川が開析する谷津に面する斜面部に所在する陶器窯跡。窯道具や生産品の特徴が、七面陶製所などの水戸藩窯とは異なることから、民窯であると考えられています。生産品は擂鉢・甕、窯道具（ヤケ缽・焼台）、色見穴の蓋が出土しています。

(58) 天聖寺歴代和尚の墓 MAP F-7 非指定
年代 享保16年(1731)～明治14年(1881)
寸法 蘭山和尚：高さ4.5m
寛保3年(1743)、天聖寺の開基である蘭山和尚は94歳の天寿を全うしました。蘭山の墓塔である宝篋印塔は、享保16年(1731)、生前に造られる「寿陵墓」として門人たちの手によって建立されました。蘭山の没後、15代にわたる歴代和尚の中で、2代慧順、4代慧命、5代仙洲、6代龍淵、7代風洲、13代興雲、14